

～修了研究が着々と進んでいます～

近頃はすっかり日も短くなり、今年も終わりが着々と近づいてきていることを実感しています。去年の今頃は、本科の卒業研究の原稿執筆に睡眠時間を捧げていたことを思い出しながら、現在、本稿の執筆に睡眠時間を捧げています。

着々と過ぎ行く時の流れに呼応して、我々1年生の修了研究も着々と進んでいます。4～10月までは、論文の書き方や分析方法を学び、先行研究を調べ、自らの研究の方針を決めるというような、いわば「研究の準備」を進めてきました。この準備段階を経て、今月から研究がついに本格的にスタートしました！私は三重県内の中学校に質問紙を発送し、亀田と中山はインタビューを行っています。示し合わせたわけでもないのですが、3人ほぼ同時に調査がスタートしたことに、何か不思議な縁を感じたりもしています。すでに若干のつまづきはあったりもしますが、滞りなく調査が終了することを願ってやみません。

授業担当の先生方より

今月から、我々専攻科の授業を担当してくれている先生方から、授業内容や学生への思いについてコメントをいただき、掲載していこうと思います。今回は、石川拓次先生と中山真先生です。

養護教育学特殊講義 I

様々な患者に対してのフィジカルアセスメントを中心に保健室における対応・処置の方法を学びます。また、その疾患に関連した解剖学の復習も取り入れています。前半は内科的疾患、後半は外科的疾患を学んでいきます。学校で起こる疾患への対応はその時々で違いますが、基本を守り、それを応用していく力を身につけて欲しいと考えています。

健康科学研究

健康とは何ですか？こう聞かれたらあなたは何と答えますか？その答えを見つけることを目的にこの講義は進められていきます。健康を運動・スポーツの領域、栄養の領域、環境の領域とさまざまな視点から先行研究を通して眺め、それぞれの健康観を深めていきます。講義は、学生が研究論文をまとめたものをプレゼンしたり、健康に関する話題について議論したりします。新たな視点で健康について考えることが出来る講義です。



石川拓次先生

教育心理学研究

教育心理学（学習や記憶といった基本的な認知機能から、いじめや不登校、発達障害などの学校教育問題まで幅広いです）に関するテキストを受講者で輪読しています。発表者は1つの章の内容をレジュメにまとめ、その他のメンバーはコメントや質問をします。大学でいうと、3～4年生でやるような形式・内容です。短大でも教育心理学に関する授業はありますが、少人数であり、演習形式ですので、しっかりと内容を理解したり、自分の経験と結びつけたりしながら進行する点がポイントです。



中山真先生